

田辺市男女共同参画センター広報紙

第 45 号

平成 23 年 1 月 28 日発行

ゆう

～ともに歩こう すてきな未来へ～



男女共同参画連絡会企画講座

パネルディスカッション「男女に仕事の『壁』はある？」

を開催しました

パネリストの4名に、仕事を始めたきっかけと、実際仕事に就いてみてどうだったかをお聞きしました。



津葉井さん

女性消防士の津葉井さんは、5年前に高校生のころから憧れていた消防職員として就職し、10ヶ月の出産・育児休業を終えて復帰したばかり。最初の約4年間は救急・火事・救助の現場に行き、救急車で搬送した女性から「女性がいてくれて良かった」という声を何度かいただいたそうです。「現場への出勤は13人と決まっています、私もその一人として活動します。女性だから免除されることは一切ありません」と話す津葉井さんは、訓練や筋力トレーニング等には人一倍取り組むように心掛け、技術や体力の向上に努めてきました。



塩川さん

男性保育士の塩川さんは、子どもと音楽が大好きだったので両方活かせる仕事であり、間近で子ども達の成長が見られる保育士になったそうです。「家庭にお父さんとお母さんがいるように、保育所でも男性の保育士がもっと増えてよいと思います。全国的にも男性保育士が増加しているので、心強いし、楽しみです」と話す塩川さんは、日ごろ保育をしている中で、どちらかというとな性はきめ細やかで男性はダイナミックなところがあり、子どもを育てていく上でのバランスが良いと考えているそうです。

女性建築施工管理技師の千本さんは、父親の建設会社に勤務して15年、現場作業員・事務員を経て、今は現場監督をしています。まだまだ上を目指したいと建築士の勉強をしている千本さんは、「現場での作業はかなり過酷だし、夕方早く帰れないこともあるので、女性にとって現場監督はかなり大変です」と話す一方、設計時に細かいところを主婦の観点で考えたり、打ち合わせ段階で奥さんととことん話し合ったりして設計に入るので、出来上がった後、喜ばれることが多いそうです。



千本さん

男性看護師の前田さんは、大学在学中に祖母の介護を手伝ったことがきっかけとなり、卒業後改めて看護師を志しました。もともと子どもとかかわることが好きだったので小児科を希望し、現在3年目です。小児科病棟ではドクターを除けば男性は自分一人という前田さんは、「職場の女性は細かいところを最後まできっちりされていることが多く、男性は大雑把だと気づかれます。小児科なので思春期の女の子や赤ちゃんのお母さんと接することもあるので気を遣います。でも、体格のよい大きな子どものケアをする時や、思春期の男の子と男同士の会話で少しでもストレス解消に役立っているのではという点では、男性スタッフがいるといいのかな」と思うそうです。



前田さん

男女共同参画センター 図書コーナーのご案内

男女共同参画センターのビデオ・図書をご紹介します。センターにはこのほか、約300冊の図書と、約40本のビデオ（DVD含む）があり、お一人2週間まで貸出しをしています。

『アイスブレイク入門

こころをほぐす出会いのレッスン』 今村光章



アイスブレイクは、見知らぬ人どうしの出会いを演出する技術。歓迎会やパーティ、保護者会、子育て支援の場など、出会いが生まれるあらゆる場面で役立ちます。人と人との出会いの大切さを実感し、出会いを演出したいと願う方に届けます。

平成22年10月17日(日) これまで男性の仕事だと思われていた職業に就いている女性、また逆に、女性の仕事だと思われていた職業に就いている男性から話しを聞くパネルディスカッションを開催しました。

パネリストは、女性消防士・女性建築施工管理技師・男性保育士・男性看護師の4名、ファシリテーター(進行役)はジェンダーブレイクあい・あいが務めました。

仕事を続けていくために必要な条件を、会場の皆さんとパネリストにお聞きしました。

会場からは、「女性が仕事を持って外で働こうと思ったら、家族の理解と協力があり、子育ての時にちょっと手を貸してくれるおじいちゃんやおばあちゃんがいると続けられると思います」「健康が第一で、仕事をしていく中で、感謝の気持ちが大事であると思います」という意見が出ました。

パネリストからは、「職場や家族など周囲の理解と協力」「仕事への熱意と情熱、家族や友人の支え」「家族や同僚に対しての思いやりと感謝の気持ち」「簡単なことでも達成感をもつこと」などの意見が聞かれました。

パネリストから次世代に向けたメッセージをお聞きしました。

前田さん「仕事に対して男女の壁はどうしてもあると思います。それが慣習からくるものなのか、身体的な差なのか、意識からか、職場なのかは人それぞれ。大事なのはその中で自分がどうしていきたいのか、どうしていくかだと思います」

千本さん「今日ここに来るまでは、男女の壁はあると思っていました。でも、色々話していると、仕事を持ってお互い支え合いながら、感謝の気持ちを持って日々過ごしていくのも、生活のメリハリがあって良いと思いました。また明日からも頑張れると思えて良かったです」

塩川さん「男女の壁はあると思えばある、ないと思えばない、その人次第です。今の時代、自分のやりたい仕事に就けるというラッキーな人は少ないから、目指したなら、苦しくても続けていけば、自然と自分の

居場所ができてくると思うので、諦めずに頑張ってください」

津葉井さん「女性だからできないのではなく、自分の知識・技術が足りないからできないことがたくさんあるので、私なりの方法で男性と同じ結果が得られるようにできる方法を考えていこうと思います。自分で選んだ道なので最後まで納得するまで後悔しないように続けていきたいです」

ファシリテーターから

仕事に男女の壁があるのかないのかについては、いろいろな意見があるようです。ただ、壁があっても乗り越えることはできる、それは性差ではなくてその人の力量であるというお話しをパネリストの皆さんから伺いました。時代が変化する中で、固定観念や先入観にとらわれずに私たちの意識も変えていかなければ、と思います。常識をたまには疑ってみる、思い込みではなく違う方面から見るとということも大事ではないでしょうか。当たり前のことを当たり前にできる世の中になっていけばいいのかなと思いました。



『キャリアも恋も手に入れる、
あなたが輝く働き方』 小室淑恵



「仕事命」「仕事よりプライベート」と、どちらかを選ぶ時代は終わりました。仕事とプライベートは対立するものではなく、むしろ両方あきらめないことで、両方がうまくいく。超人気ワーク・ライフバランスコンサルタントが教えます。

『家庭モラル・ハラスメント』 熊谷早智子



モラル・ハラスメントとは「精神的虐待・精神的暴力」を意味します。19年間の結婚生活で夫からモラハラを受け続けてきた女性が自らの体験を伝え、モラハラの実態、加害者の思考・行動傾向、どのようにモラハラから生還したのかをお話しします。

女性電話相談室から

カウンセリングを学ぶ

シリーズ 「聴く」 ってどういうこと？

仕事や家庭、地域などで、いろいろな悩みやストレスを抱えることが多い現代。「人間関係を良くするにはどうすればいい?」、「悩んでいる人の心を少しでも和らげることができれば...」。そう思っているあなたに、「上手に聴くコツ」をお伝えします。日常生活できっと役立つ「聴く」を中心に、カウンセリングの基礎を学んでみませんか？

日 時 : 2月20日(日) 午後1時30分~3時30分

講 師 : 日高正宏さん(神戸学院大学人文学部教授・心理臨床カウンセリングセンター長、「京都いのちの電話」理事・研修委員長)

場 所 : 田辺市民総合センター 4階「交流ホール」

定 員 : 20名(先着順)

申 込 み : 2月18日(金)までに電話・ファクシミリ・E-mailで男女共同参画センターへお申し込みください。

一時保育 : 0歳から小学3年生までのお子さんをお預かりします。2月10日(木)までにお申し込みください。

3月26日(土) 午後1時30分~3時30分の日程で、
『シリーズ 「共感」 ってどういうこと?』の開催を予定しています。



発行：田辺市男女共同参画センター

開館時間

午前8時30分~午後5時15分

休館日

毎週土曜・日曜、祝日、年末年始(12月29日~1月3日)

所在地

〒646-0028 和歌山県田辺市高雄一丁目23番1号
田辺市民総合センター4階

連絡先

電話：0739-26-4936

ファックス：0739-24-8323

Eメール：danjo@city.tanabe.lg.jp

交通

JR：紀伊田辺駅から徒歩15分

明光バス・龍神バス：栄町停留所(市民総合センター前)から徒歩1分